



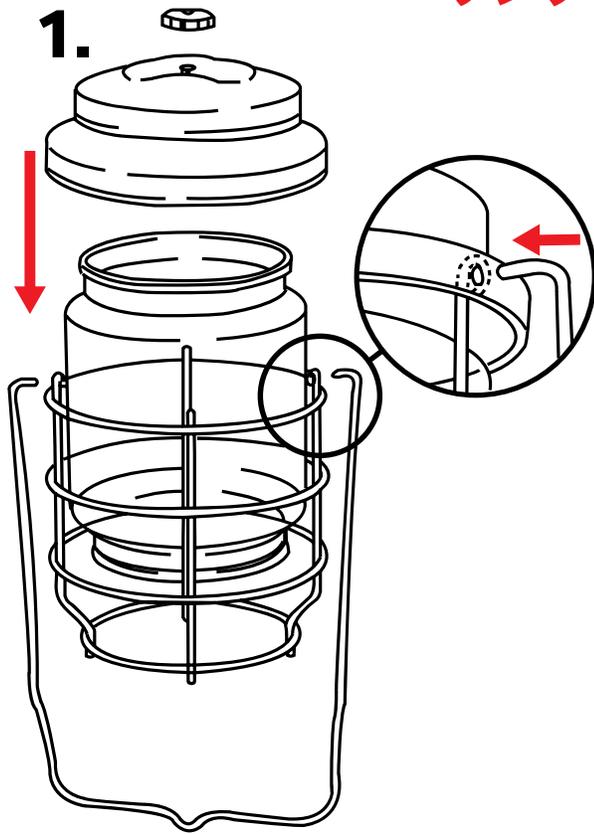
Coleman® Lantern 取扱説明書



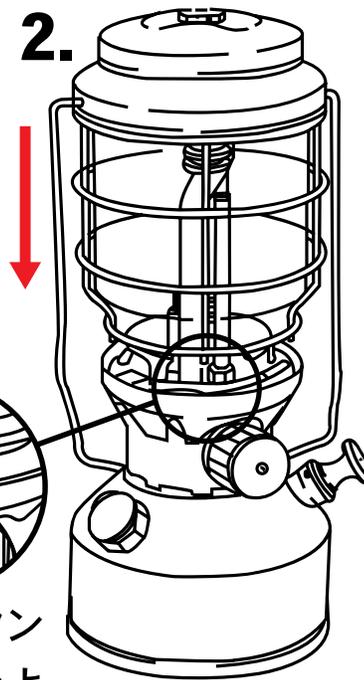
North Star Coleman®

TUBE MANTLE

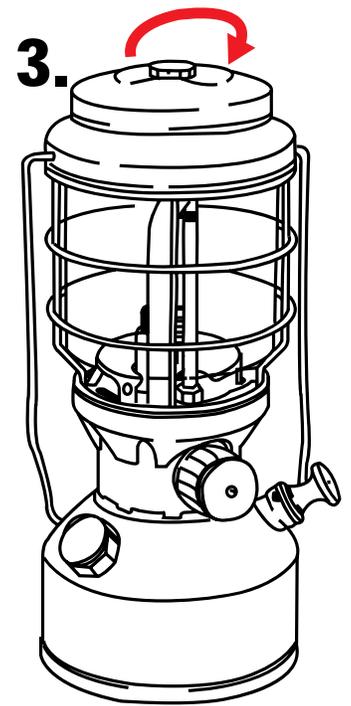
ランタンの組み立て方



グローブを入れ、ベンチレーターをセットし、ベイルを所定の位置にセットする。



グローブガードをランタンベース所定の位置に合うようにセットする。



ベンチレーターナットで全体を固定する。

目次

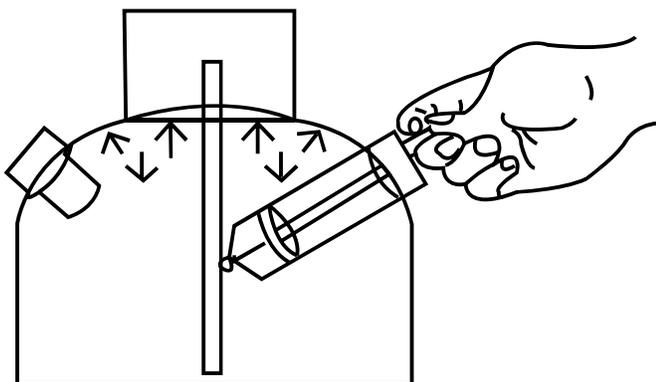
ランタンの組み立て方	2	1 燃料を入れる	7
基本的な仕組み	3	2 マントルの装着, 3 ポンピング	8, 9
各部の名称と役割	4	4 点火, 5 火力調節・消火	10
分解図とパーツリスト	5	メンテナンス	11
基本的な注意	6		

ガソリントイプ燃焼器具の基本的な仕組み

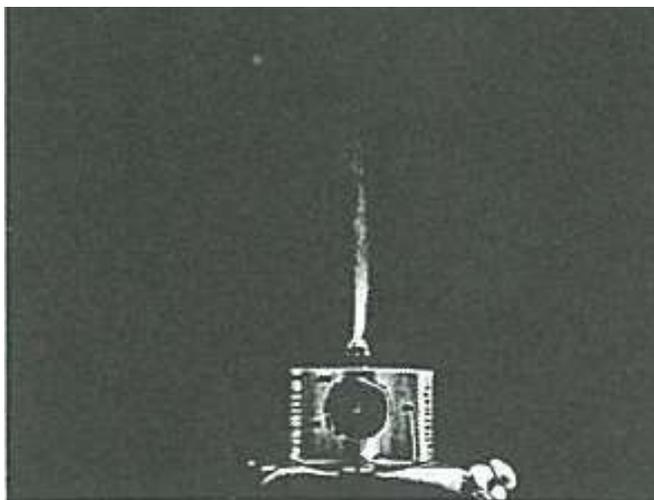
正確で力強いポンピングによる空気圧が最大のポイント

コールマンの、ガソリンを燃料とする燃焼器具は、すべて共通のシステムになっている。

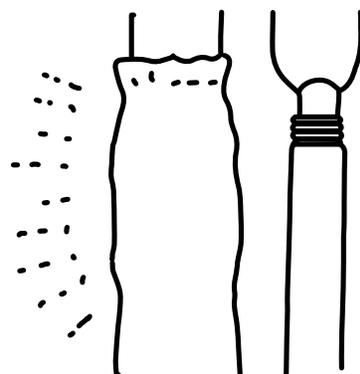
- ①ポンピングで、燃料タンク内に空気圧を加える。



- ②燃料バルブの操作で、圧力のかかった燃料が空気と一緒に、噴霧状になってジェネレーター内に送られる。



- ③バーナーやマンツルの燃える熱で、ジェネレーター内部を通る燃料が気化される。



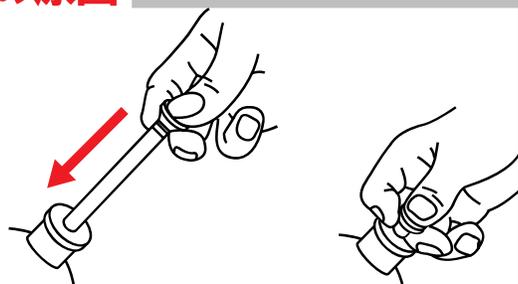
- ④気化された燃料が、大気中の酸素と混じりあって燃えるので、ススの出ない地球環境にやさしい、クリーンな炎で燃焼する。

高い空気圧が明るさの秘訣

ジェネレーター内に送りこまれる燃料が、噴霧状になることが気化させるポイントとなる。空気圧が高いほど勢いよく押し出され噴霧状になりやすく気化しやすい。したがって、空気圧が高いほど点火操作も簡単で、効率よくきれいな燃焼が得られる。

空気圧不足が燃焼不良の原因

燃焼不良の原因のほとんどが、空気圧不足。必ず固くなるまで強くポンピングし、連続使用する場合は、頻繁にポンピングする。



ランタン各部の名称と役割

ベンチレーター

ランタン上部を保護する。耐熱ホーロー加工を施した笠。

ベンチレーターナット

ベンチレーターを本体に同定する。

ジェネレーター

液状の燃料を気化させ、きれいな燃焼を得るための、大切な部品。

マンテル

光源となる発光体。

グローブ

耐熱ガラス製で、急激な温度変化にも耐え、マンテルを保護する。

燃料バルブ

点火や消火。火力調節からジェネレーター内部の掃除まで行う。

グローブガード

ガラスグローブを衝撃から守る。

カラー

上部構造を本体に固定し、燃焼に必要な空気の取り入れ口。

燃料キャップ

燃料注入口のふた。

ポンプノブ

燃料タンク内に、空気圧を送りこむ。

自動点火ボタン

手軽に安全着火。

ランタンベース

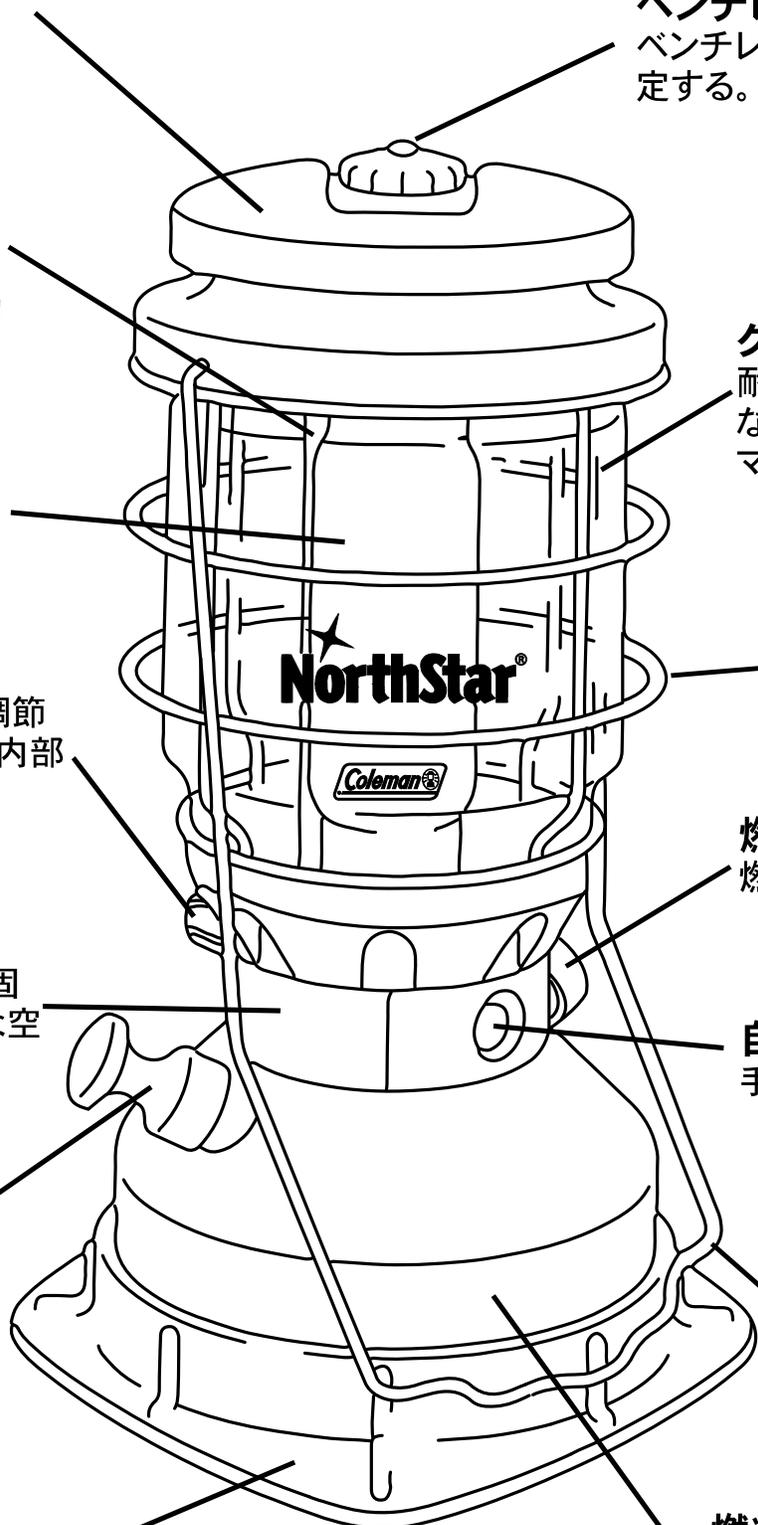
ランタンを安定させる。

ベイル

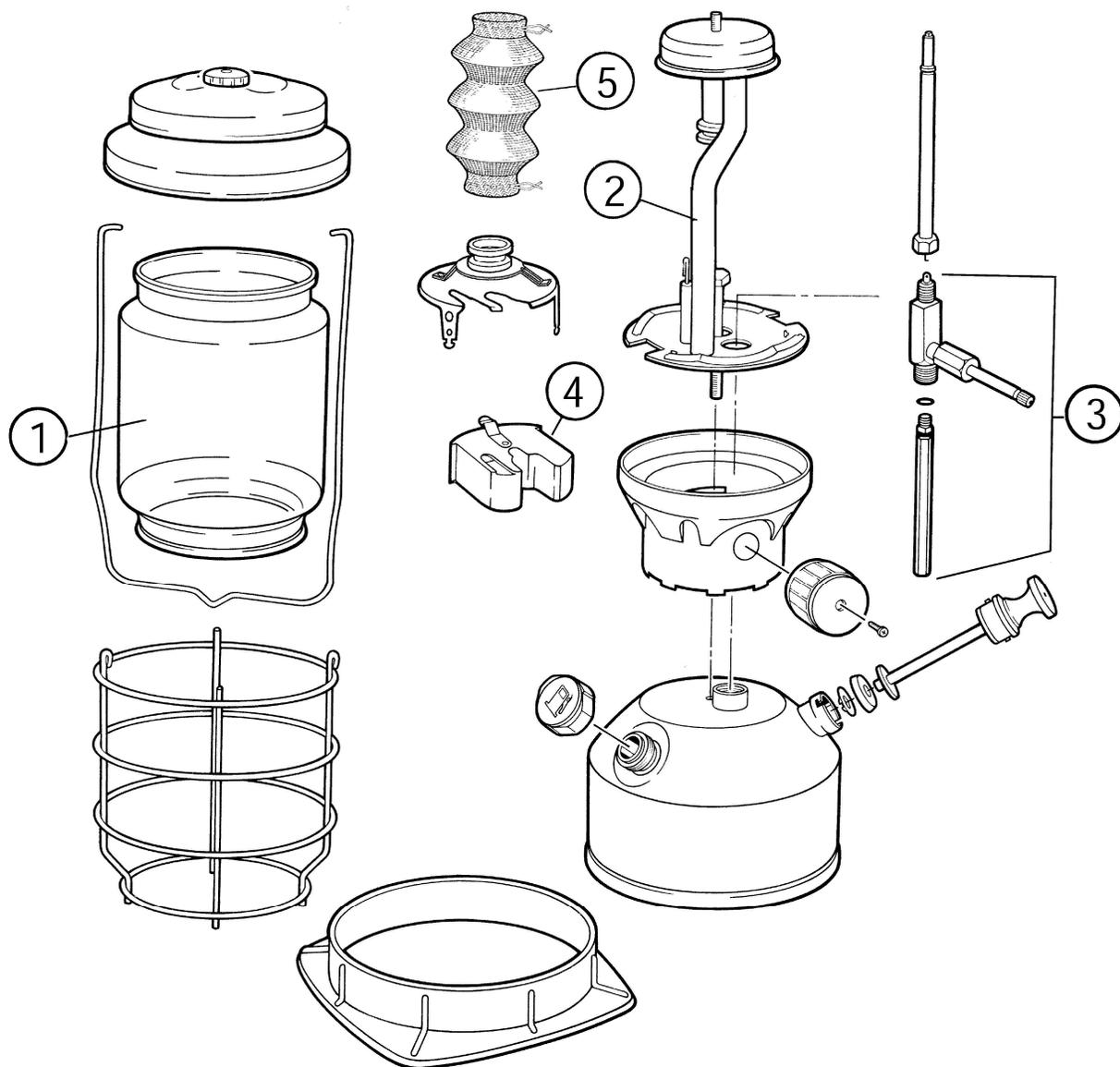
持ち運びやバンガーなどに吊るす時に便利なハンドル。

燃料タンク

内部にさび止め処理を施し、燃料逆流防止装置を備えた安全設計。



分解図とパーツリスト



英語名

- ① Globe
- ② Burner Assembly
- ③ Valve Assy. Less Generator
- ④ E. I. Module
- ⑤ Mantle

パーツ名

- 耐熱ガラスグローブ
- バーナー式
- バルブ式
- 自動点火装置
- マントル

パーツカタログはこちら

<http://partscatalog.special-coleman.com/>

⚠️コールマンランタン使用上の基本的な注意

**ランタンは、アウトドア（屋外）用に開発された商品です。
必ず、アウトドアにてご使用ください。**

1. コールマン純正ホワイトガソリンは発火点が低く大変危険です。火気からは1m以上離して使用し、取り扱いには充分注意してください。
2. コールマン純正ホワイトガソリン、ンをご使用ください。その他のガソリン、ケロシン（白灯油）等は使用しないでください。故障の原因となります。
3. 燃料は火気の近くや湿度の高い温度が40℃以上になる場所には保管しないでください。
4. 点火作業は必ず屋外の火気のない所で行なってください。また、点火中もしくはランタンの使用直後等の熱い時は絶対に燃料キャップを開けないでください。
5. 燃料キャップを開けている時、または給油中は絶対に自動点火ボタンを押さないでください。
6. このランタンは屋外専用照明器具です。その他の目的には使用しないでください。
7. 使用中は多量に酸素を消費します。テント内、屋内または換気の悪い場所では使用しないでください。
8. テント、スリーピングバッグ・衣類等の燃えやすい物からは上部（1.2m以上）左右（30cm以上）離してお使いください。
9. マントルに穴があいた時は必ず交換してください。思わぬ事故の原因となる場合があります。
10. 子供・幼児の手に届く所に置かないでください。
11. 燃焼中や消火直後は、ガラスグローブ、ベンチレーター、ベンチレーターナットなどの、上部構造が非常に高熱を帯びています。やけど等の恐れがあるので、手を触れたりしないでください。

修理はお買い求めの販売店に

ランタンの修理は、グローブ、ベンチレーターとマントルをはずし、燃料を抜いて、保証書と一緒に、お買い求めの販売店にご依頼ください。

1 燃料を入れる

必ず、アウトドア（屋外）の火気のない所で行ってください。

① 燃料バルブを「OFF」にする。（図1）

⚠️ 点灯中、もしくは消火直後の本体が熱をおびている時の給油はしないでください。引火する恐れがあります。



図 1

② 燃料キャップをあげ、ファネル等のアクセサリーを使用して燃料を8分目まで入れる。（図2）

⚠️ 燃料を入れ過ぎると空気圧をかけるスペースがなくなり、不完全燃焼の原因になります。

⚠️ 給油は必ず水平な場所で行ってください。

⚠️ こぼれたガソリン等はすぐに拭き取ってください

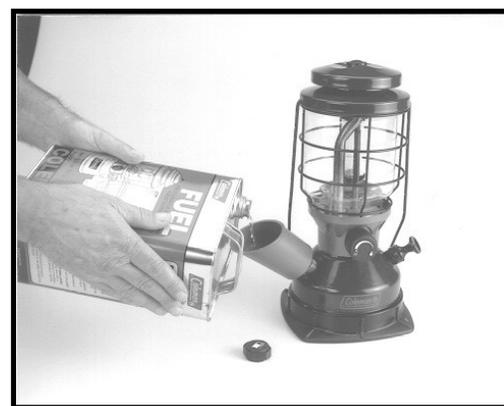


図 2

2 ポンピング 燃料タンク内に空気圧を加えます。

① 燃料バルブ、燃料キャップを「OFF」にする。（図3）

② ポンプノブを持ち、固くなるまで（25回以上）ポンピングする。（図4）



図 3



図 4

3 マントルの装着

必ず、コールマン純正チューブ型マントルをご使用ください。

①ベンチレーターナットを外す。(図5)

②ベンチレーター、ガード、グローブを取り外す。(図6)



図 5



図 6

③バーナーチューブと下部のマントルサポートにマントルをかぶせる。(図7・8・9)

⚠クリップが上下の溝に入るようにセットしてください。



図 7



図 8



図 9

④上下のクリップをひねって固定する。(図10・11・12)

⚠マントルの黒い線が垂直になるようにセットしてください。

⚠マントルが自動点火装置の電極にからまないようにしてください。

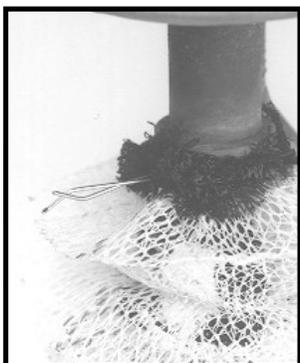


図 10

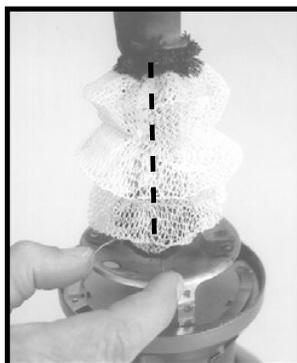


図 11



図 12

4 カラヤキをする

点火する前に一度、マンテルを燃やして灰状にします。

①マンテルの下部から均等に火をつけて、完全に灰状になるまで燃やす。(図13)

⚠カラヤキしたマンテルは、非常にもろく、強い衝撃や指先・マッチ等で簡単に破損します。取扱いには充分注意してください。

⚠マンテルは消耗品です。常時、予備のマンテルをご用意ください。

⚠カラヤキしない、または途中で点火するといびつな形状になり、正常な光量が得られない場合があります。必ず完全にカラヤキしてから、点火してください。

②ベンチレーター、ガード、グローブを元に戻す。ベンチレーターナットを閉め、固定する。(図15)

⚠ガードワイヤーがフレームの所定の位置にはまる様にセットしてください。(図14)

⚠グローブをセットする時にマンテルクリップにぶつからない様に注意してください。

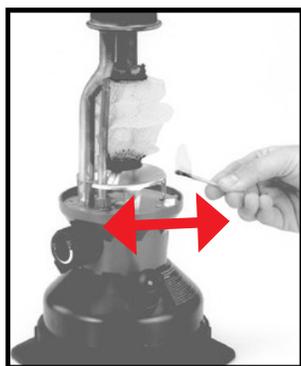


図 13

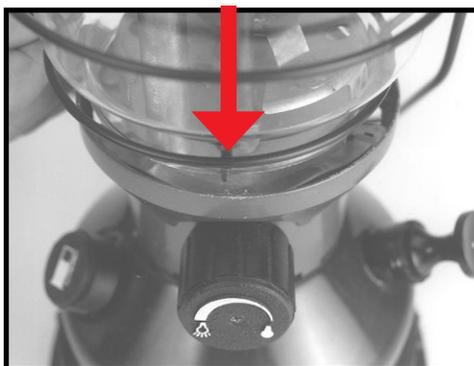


図 14



図 15

5 点火

必ず、屋外で使用してください。テント内、屋内もしくは換気の悪いところでは使用しないでください。

自動点火ボタンを押しながら、燃料バルブを開き点火する。(図16・17)

⚠ 点火時は炎が上に上がりますので、ランタンにかがみ込まないでください。



図 16

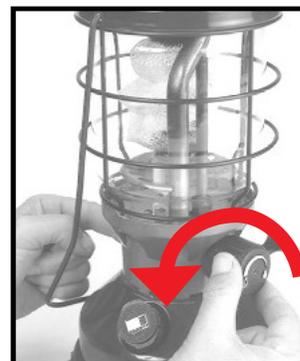


図 17

6 光量調節・消火

① 光量調節は燃料バルブを左右に回して調節する。(図18)

② 消火は燃焼バルブを「OFF」まで確実に回す。(図19)

⚠ 完全に消火するにはジェネレーター内の気化燃料がなくなるまで2～3分かかります。

⚠ 再度、点火する際は、5分～20分位間隔をあけてから点火してください。異常燃焼する場合があります。



図 18



図 19

メンテナンス

1. ジェネレーター部分は定期的なクリーニングが必要です。クリーニングは使用中に燃料バルブを「OFF」～「HIGH」まで数回開閉します。
2. 自動点火装置内の電池は1年に1回は交換してください。自動点火装置を本体から取り外し、電池を交換してください。(図1, 2)電池は単4アルカリ乾電池を御使用ください。ニッケルカドミウム電池は使用しないでください。交換作業中は自動点火ボタンを押さないでください。感電する恐れがあります。
3. 1ヶ月以上ご使用にならない場合は乾電池を取り外してください。
4. グローブが破損した場合は図3, 4のように交換してください。
5. カラヤキしたマントルは非常に壊れやすいので常時、予備のマントルを携帯してください。穴の開いたマントルは使用しないでください。
6. 燃料タンクは1年に1回位、新しいホワイトガソリンで内部を洗浄して不純物を取り除いてください。燃料の吸い上げが悪くなる場合があります。
7. ポンプカップには定期的に専用のリユブリカントを付けてください。油がきれいになるとポンプカップの破損につながる場合があります。
8. 直射日光のあたらない、温度が40℃以下、湿気、ホコリの少ない場所に保管してください。幼児・子供の手の届かない様にしてください。
9. 修理・製品についてのお問い合わせはお買い上げ頂いたお店、もしくは弊社までお問い合わせください。保証書はなくさず大切に保管してください。



図 1

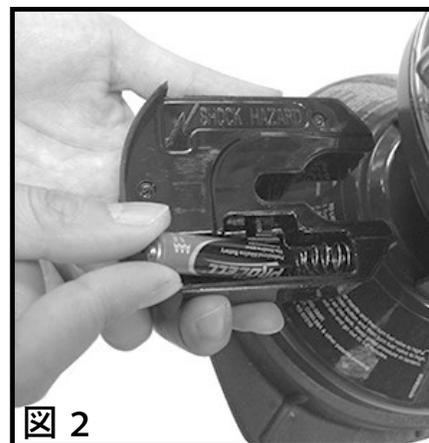


図 2



図 3

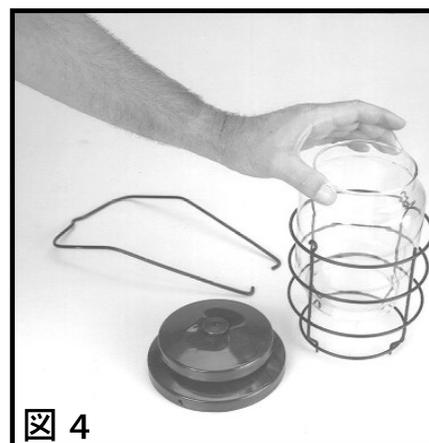


図 4

